

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	総合国語	担当教員	堅田陽子
学年学科	4年 全学科	前期もしくは後期	必修 1 単位
学習・教育目標	(A-2) 20% (C-1) 80% JABEE 基準 1 (1): (a) (f)		
授業の目標と期待される効果： 第 3 学年までの学習成果をふまえ、読解・表現・議論にかかわる国語能力のさらなる育成を目的とする。 ① 論理の展開を的確に捉え、要旨を把握できる。 ② 論理的に思考し、結論を導くことができる。 ③ 自身の考えを的確な表現を用いて記述・発表できる。 ④ 論理的な議論ができる。 ⑤ 議論にふさわしい表現を用いることができる。	成績評価の方法： 中間試験 (100 点) + 期末試験 (100 点) + 作文・ディベート関連学習・課題 (100 点) 上記 300 点の総得点率 (%) によって成績評価を行う。	達成度評価の基準： 以下の項目に関して 6 割以上の正答レベルまで達していること。 ① 論理の展開を理解し、要旨を把握できたか。 ② 論理的に思考し、結論を導くことができたか。 ③ 自身の考えを的確な表現を用いて記述・発表できたか。 ④ 適切な表現を用いて論理的な議論ができたか。	
	授業の進め方とアドバイス： この授業では、評論文の読解のほか、グループ学習をふまえたディベートなど、能動的な学習が含まれる。積極的に発言・発表し、意見交流を通して、他者と建設的に議論する姿勢を身につけてほしい。 課題は必ず提出すること。		
教科書および参考書： 大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法、改訂第二版 (松本茂・河野哲也、玉川大学出版部 2015 年) 他に辞書等			
授業の概要と予定：前期	教室外学修	A L のレベル	
第 1 回： 評論文の読解 (1)	評論文に使用される語句を調べる	C	
第 2 回： 評論文の読解 (2)	評論文に使用される語句を調べる	C	
第 3 回： 評論文の読解 (3)	課題文の要約作成	C	
第 4 回： 要約文	課題文の分析	C	
第 5 回： 客観的批評 (1)	課題文の分析	C	
第 6 回： 客観的批評 (2)	作文	B	
第 7 回： 作文	ブレインストーミングについて調べる	C	
第 8 回： 中間試験			
第 9 回： ブレインストーミング	課題文に使用される語句を調べる	B	
第 10 回： ディベート導入 (1) (課題文の読解)	課題文に使用される語句を調べる	C	
第 11 回： ディベート導入 (2) (課題文の読解)	ディベートの構想をまとめる	C	
第 12 回： ディベート実施準備	ディベートの最終準備	B	
第 13 回： ディベート実施	ディベートの結果をまとめる	A	
第 14 回： ディベートのまとめ	授業でのまとめをふまえて報告書を作成	C	
期末試験			
第 15 回： 前期のまとめ (期末試験の解答の解説など)			

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	論理や要旨の理解に関する問題を正確（8割以上）に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる。	論理や要旨の理解に関する問題を正確に解くことができない。
②	論理的に思考し結論を導く課題に関する問題を、正確（8割以上）に解くことができる。	論理に思考し結論を導く課題に関する問題を、ほぼ正確（6割以上）に解くことができる。	論理に思考し結論を導く課題に関する問題を正確に解くことができない。
③	自身の考えを的確な表現を用いて正確（8割以上）に記述・発表できる。	自身の考えを的確な表現を用いてほぼ正確（6割以上）に記述・発表できる。	自身の考えを的確な表現を用いて正確に記述・発表することができない。
④	適切な表現を用いた論理的な議論が、正確（8割以上）にできる。	適切な表現を用いた論理的な議論が、ほぼ正確（6割以上）にできる。	適切な表現を用いた論理的な議論ができない。